



「女性らしさ」や「女性だからこそ」をいかす面もあれば、現場でのアクティブな活動が醍醐味だったり、専門的知識で勝負ができる面も！

【ケース7】 経歴7年

子供のころから人一倍正義感が強い自負があった私。

学生時代に友人の身に起こった出来事がきっかけで、穏やかな日常が害されることに怒りを感じ「警察官になるしかない！」と思いました。

女性警察官の多くが新人時代に交番勤務を経験した後、数年で専門分野に進みますが、私は警察学校を卒業してからずっと現場第一で活動する交番勤務をしてきました。

そして、最近パトカー乗務員に指名されたところです。

パトカー乗務はこれまでの交番勤務以上に事件現場への臨場機会が増え、高い対応力が求められるので甘えているわけにはいきません。

「覚悟がある仕事」だと改めて感じるとともに、一般の方から直接聞けるお声や、制服を着ている使命感で気持ちが引き締まる日々です！

【ケース8】 経歴4年

兵庫県警察の採用試験には学歴に応じた受験区分とは別に、専門的な資格を持っていることなどが受験資格となる特別区分があり、私は情報処理（令和3年現在・サイバー捜査）区分で受験をし、採用されました。

大学時代、工学部に進んだものの将来やりたいことも見つからず、就職活動もうまくいかない日々。「就職に有利かも」と情報処理系の資格を取得。

そんなときに新聞に掲載されていた「兵庫県警察官募集」の記事を目にし、警察官という仕事のなかに、取得した資格がいかされる職種があることを知りました。サイバー空間を利用した様々な事件に関係するパソコンやスマートフォンなどの解析に携わる業務のため、刻々とかわっていく新しい情報社会への対応等めまぐるしい毎日ですが、自分の居場所を見つけました！